

STAGE+を楽しむ(198)(HP 収録)
—バレンボイムのブルックナー交響曲 7 番—

1. 始めに

前報(197)に引き続き、STAGE+のバレンボイム指揮シュターツカペレ・ベルリンのブルックナーの交響曲第 7 番の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は STAGE+のバレンボイム指揮シュターツカペレ・ベルリンのブルックナーの交響曲第 7 番の演奏を選びました。

バレンボイムが指揮するブルックナーの交響曲第 7 番

シュターツカペレ・ベルリン

収録日: 2010 年 6 月 25 日

450 年を超える伝統を誇る世界最古級のオーケストラ、シュターツカペレ・ベルリンは、1992 年から 2023 年まで音楽総監督を務めたダニエル・バレンボイムと 30 年以上にわたって密接な関係を築きました。この長年のコンビは、オーケストラやオペラの中心的なレパートリーで賞賛を得てきましたが、ブルックナーの交響曲もその例に漏れません。2010 年 6 月、ベルリン・フィルハーモニーで一週間にわたって交響曲第 4~9 番が演奏された模様が収録されています。こちらの映像でご覧いただけるのは、1874 年に作曲された交響曲第 7 番。アダージョ楽章には、彼が崇拜するワーグナーへの追悼の意が込められています。1884 年ライプツィヒでの初演は、ブルックナーが生涯経験した最大の勝利であり、以来彼が残した人気作のひとつとして親しまれています。

ソリスト:

ダニエル・バレンボイム (ピアノ)

演奏:

シュターツカペレ・ベルリン

曲目:

アントン・ブルックナー 交響曲第 7 番ホ長調 WAB 107 (ノヴァーク版)



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。

本年はブルックナー生誕 200 年ということで、演奏会やアーカイブの公開が続いています。

今回は、そのようなアーカイブから バレンボイム指揮シュターツカペレ・ベルリンのブルックナーの交響曲第 7 番を試聴します。

前報(192)の交響曲 4 番と同様、今回のバレンボイム指揮シュターツカペレ・ベルリンの演奏は、ベルリンフィル大ホールでの収録です。

この曲の爽やかな弱音から重層的で複雑な音の構成の曲に対する、バレンボイムの引き締まった指揮が、ベルリンフィル大ホールで伝統あるシュターツカペレ・ベルリンの重厚な演奏を引き出しています。音質的にもベルリンフィル大ホールの収録なので、ベルリンフィルの演奏によく似ています。



4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用した結果、爽やかな弱音から重層的で複雑な音の構成の曲に対する、ベルリンフィル大ホールにおける伝統あるシュターツカペレ・ベルリンの重厚な演奏を引き出しています。

以上